

障害者支援の「隙間」を埋める
地域−大学−企業フォーラム
@名古屋大学

名古屋大学
地域貢献
特別支援事業

同じ一人の障害を持った個人で
あるのに、生活、修学、就労それ
ぞれの領域で、「利用できる支援が違う」、
「支援の連続性がない」、「一から説明しないと
いけない」、「あっちとこっちで勝手が違う」、そん
な悩みを耳にしませんか？
たくさんの支援が整備されてきたけれども、
どれも少しずつ隙間が空いている。その
支援の「隙間」を埋めること、一緒
に考えてみませんか。

令和元年 **11** 月 **15** 日（金）

11:00−17:00

午前の部

当事者・支援者の語り

午後の部

「隙間」を埋めるワークショップ

定員：50 名　参加無料

主催：名古屋大学学生支援センター
協力：岐阜大学サポートルーム
後援：名古屋市

City vector created by freepik - www.freepik.com

障害 ＝ 特性 × 障壁

障害とは、ある特性を持った個人が社会の中で障壁に出会うことで障害を被った状態だと考えられます。そのため障害の支援とは、特性を抱えて生きる個人の自分自身への適応を支えることであり、また社会がその個人の特性に適応することでもあります。この時、制度に人がなじむのではなく、人になじむ制度であることが理想であるでしょう。

現実的には、障害を抱えた個人がさまざまな支援を制度に沿って利用しています。当然、そこには制度と制度の、支援と支援の、「隙間」が存在しています。けれどもそれは不変ではありません。

少し前、障害のある学生の就労を支援する仕組みはありませんでした。今では、学生の就労移行支援の利用が可能になりました。他方、先日の選挙で注目されたように、重度訪問介護など生活の介護を受けつつ働くことには「隙間」が存在しています。同じことは修学にもあてはまります。企業での合理的配慮の問題も取り組まれていく課題でしょう。

少しずつ状況は変化していきます。いま、私たちの周りにはどのような支援の「隙間」が存在しているのでしょうか。これにどう向き合うのがいいのでしょうか。この機会に振り返って考えてみませんか？

今ある課題とこれからの対応を検討するために、当事者や支援に関わる人が集まってフォーラムを開催したいと思います。「人になじむ制度」に向けて、たくさんの皆様の参加をお待ちしています。

プログラム

午前の部（11:00-13:00）

「当事者・支援者の語り」

塚本 瞬さん（名古屋大学経済学研究科）

辻 直哉さん（AJU 自立の家）

五十嵐 意和保さん（愛知障害者職業センター）

日下 喜与美さん（アイシン精機人事部）

午後の部（14:00-17:00）

「『隙間』を埋めるワークショップ」

グループA

大学生活をめぐる隙間を振り返る

グループB

つながるマップ・ワークショップ

会場：名古屋大学　NIC3階　大会議室

お申し込み：下記窓口までメールにてお名前・ご所属・希望ワークショップグループをご連絡ください（支援の必要な方もお知らせください）。なお、グループAは当日参加も可です。

窓口：名古屋大学学生支援センター
障害学生支援室
osd@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp
052-789-4756

